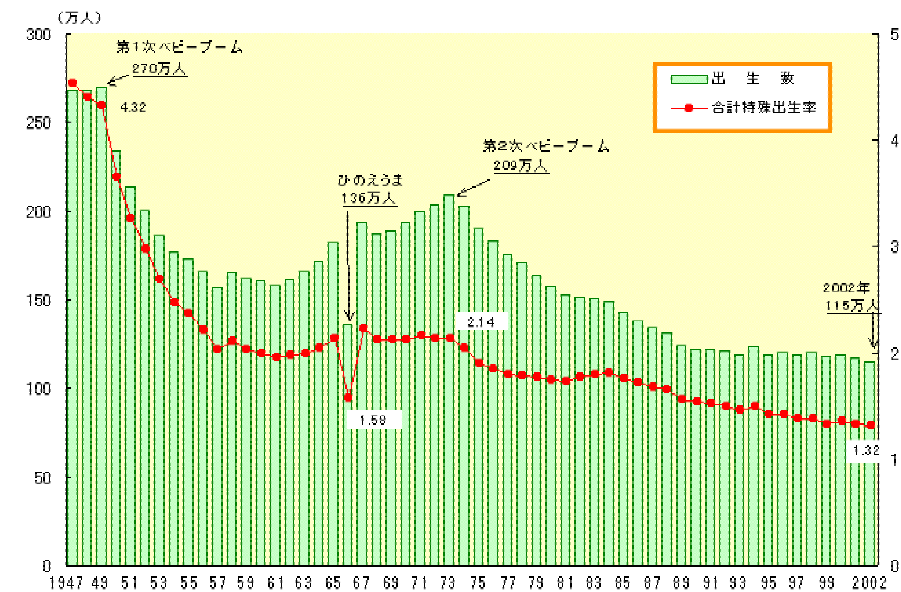


# 1 . 少子化の実態

## 1 - 1 . 日本の実態

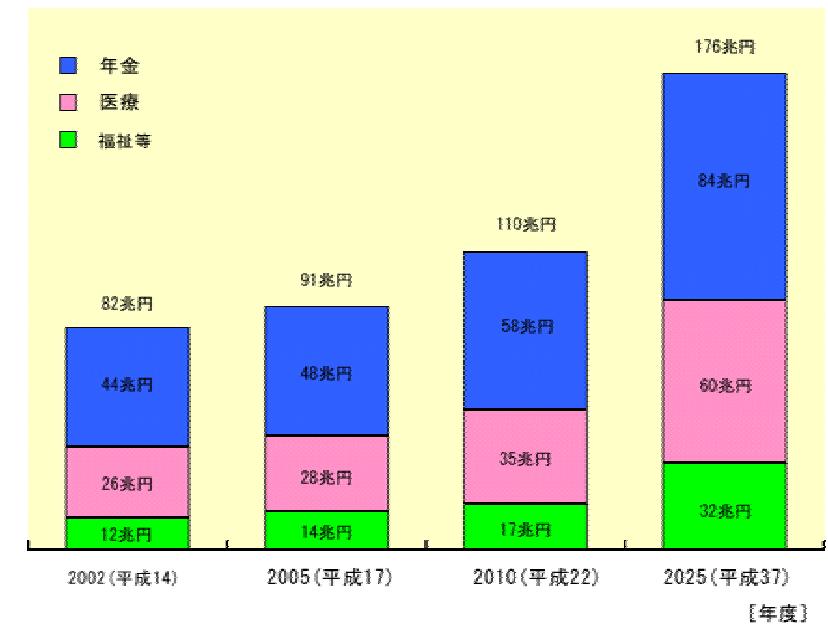
### 1 - 1 - 1 . 人口の減少

	1995年度 (平成7年度)	2000年度 (平成12年度)	2010年度 (平成22年度)	2025年度 (平成37年度)
経済成長率	2.3%	2.6%	1.8%	0.8%
国民負担率	36.7% (44.1%)	39.7% (49.9%)	47.4% (58.9%)	60.0% (92.4%)
勤労者1人当たり 手取り所得伸び率	1.5%	1.9%	1.0%	0.3%



- 合計特殊出生率が2.08を下回ると、親世代より子世代の数が少なくなり、総人口は減少へと向かう（右上図）
- 経済成長率が低下し、現行の社会システムを維持していくためには現役世代の負担率が上がる（上表、右下図）

合計特殊出生率：女性のある1年間の年齢別出産パターンを一生の間のできごととみなした場合の平均子ども数



# 1. 少子化の実態

## 1 - 1. 日本の実態

### 1 - 1 - 1. 人口の減少

- 全国合計特殊出生率が、1.32（2002年）に落ち込んでいる  
これは現状の社会システムを維持できる数字とは言い難い  
結婚に対する価値の変化が1つの要因？
- 各都道府県別合計特殊出生率  
沖縄県の1.82（2000年）が最高で、後は2.0を大きく割ってしまっている

都道府県別合計特殊出生率：1925～2000年

都道府県	1925年	1930年	1950年	1960年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	1998年	2000年
全 国	5.10	4.71	3.64	2.02	2.08	1.94	1.75	1.74	1.52	1.42	1.36	1.37
北 海 道	6.00	5.73	4.59	2.17	1.93	1.82	1.64	1.61	1.43	1.31	1.26	1.23
青 森	6.48	6.32	4.81	2.48	2.25	2.00	1.85	1.80	1.56	1.56	1.50	1.47
岩 手	6.01	5.90	4.48	2.30	2.11	2.14	1.95	1.88	1.72	1.62	1.57	1.56
宮 城	6.23	5.88	4.29	2.13	2.06	1.96	1.86	1.80	1.57	1.46	1.39	1.37
秋 田	6.12	6.18	4.31	2.09	1.88	1.86	1.79	1.69	1.57	1.56	1.48	1.45
山 形	5.91	5.89	3.93	2.04	1.98	1.96	1.93	1.87	1.75	1.69	1.61	1.62
福 島	5.71	5.64	4.47	2.43	2.16	2.13	1.99	1.98	1.79	1.72	1.65	1.65
茨 城	5.62	5.44	4.02	2.31	2.30	2.09	1.87	1.86	1.64	1.53	1.44	1.47
栃 木	5.88	5.70	4.14	2.22	2.21	2.06	1.86	1.90	1.67	1.52	1.44	1.48
群 馬	5.54	5.34	3.80	2.03	2.16	1.99	1.81	1.85	1.63	1.56	1.45	1.51
埼 玉	5.70	5.33	3.92	2.16	2.35	2.06	1.73	1.72	1.50	1.41	1.28	1.30
千 葉	5.52	5.05	3.59	2.13	2.28	2.03	1.74	1.75	1.47	1.36	1.26	1.30
東 京	4.09	3.51	2.73	1.70	1.96	1.63	1.44	1.44	1.23	1.11	1.05	1.07
神 奈 川	5.10	4.34	2.25	1.89	2.23	1.95	1.70	1.68	1.45	1.34	1.28	1.28
新 潟	5.95	5.76	3.99	2.13	2.10	2.03	1.88	1.88	1.69	1.59	1.54	1.51
富 山	5.88	5.19	3.57	1.91	1.94	1.94	1.77	1.79	1.56	1.49	1.44	1.45
石 川	5.41	4.82	3.56	2.05	2.07	2.08	1.87	1.79	1.60	1.46	1.45	1.45
福 井	5.64	5.07	3.65	2.17	2.10	2.06	1.93	1.93	1.75	1.67	1.60	1.60
山 梨	5.93	5.33	3.71	2.16	2.20	1.98	1.76	1.85	1.62	1.60	1.48	1.51
長 野	5.00	4.87	3.25	1.94	2.09	2.05	1.89	1.85	1.71	1.64	1.57	1.59
岐 阜	5.75	5.47	3.55	2.04	2.12	2.00	1.80	1.81	1.57	1.49	1.43	1.47
静 岡	5.81	5.26	3.74	2.11	2.12	2.02	1.80	1.85	1.60	1.48	1.42	1.47
愛 知	4.99	4.60	3.27	1.90	2.19	2.02	1.81	1.82	1.57	1.47	1.42	1.44
三 重	5.33	5.01	3.33	1.95	2.04	1.99	1.82	1.80	1.61	1.50	1.43	1.48
滋 賀	5.06	4.76	3.29	2.02	2.19	2.13	1.96	1.97	1.75	1.58	1.51	1.53
京 都	4.08	3.59	2.80	1.72	2.02	1.81	1.67	1.68	1.48	1.33	1.26	1.28
大 阪	3.53	3.21	2.87	1.81	2.17	1.90	1.67	1.69	1.46	1.33	1.31	1.31
兵 庫	4.32	3.94	3.08	1.90	2.12	1.96	1.76	1.75	1.53	1.41	1.38	1.38
和 歌 山	4.88	4.39	3.08	1.87	2.08	1.85	1.70	1.69	1.49	1.36	1.30	1.30
鳥 取	4.87	4.45	3.09	1.95	2.10	1.95	1.80	1.79	1.55	1.48	1.44	1.45
島 根	5.02	4.63	3.46	2.05	1.96	2.02	1.93	1.93	1.82	1.69	1.62	1.62
岡 山	5.11	4.73	3.87	2.13	2.02	2.10	2.01	2.01	1.85	1.73	1.67	1.65
廣 島	4.50	4.23	3.18	1.89	2.03	2.05	1.86	1.89	1.66	1.55	1.49	1.51
山 口	5.14	4.53	3.22	1.92	2.07	2.05	1.84	1.83	1.63	1.48	1.42	1.41
徳 島	4.79	4.31	3.62	1.92	1.98	1.92	1.79	1.82	1.56	1.50	1.46	1.47
香 川	5.69	5.36	3.97	2.02	1.97	1.89	1.76	1.80	1.61	1.52	1.42	1.45
愛 媛	5.53	5.15	3.38	1.84	1.97	1.96	1.82	1.81	1.60	1.51	1.47	1.53
高 知	5.45	5.15	4.03	2.10	2.02	1.97	1.79	1.78	1.60	1.53	1.46	1.45
福 岡	4.74	4.35	3.39	1.94	1.97	1.91	1.64	1.81	1.54	1.51	1.44	1.45
福 佐	4.58	4.14	3.91	1.92	1.95	1.83	1.74	1.75	1.52	1.42	1.37	1.36
佐 賀	5.56	5.01	4.28	2.35	2.13	2.03	1.93	1.95	1.75	1.64	1.62	1.67
長 崎	5.11	4.84	4.49	2.72	2.33	2.13	1.87	1.87	1.70	1.60	1.58	1.57
熊 本	5.13	4.89	4.06	2.25	1.98	1.94	1.83	1.85	1.65	1.61	1.55	1.56
大 分	5.37	5.00	3.90	2.05	1.97	1.93	1.82	1.78	1.58	1.55	1.52	1.51
宮 崎	5.20	5.14	4.35	2.43	2.15	2.11	1.93	1.90	1.68	1.70	1.62	1.62
鹿 児 島	5.32	5.05	4.19	2.66	2.21	2.11	1.95	1.93	1.73	1.62	1.56	1.58
沖 縄	3.86	3.71	...	...	...	2.88	2.38	2.31	1.95	1.87	1.83	1.82

厚生労働省統計情報部『人口動態統計』、総務省統計局『国勢調査報告』及び同『人口推計年報』に基づく。率算出の女子人口には、1925～50年および98、99年は総人口、1960～95年は日本人人口を用いている。なお、年齢は5歳階級による。1950～70年は沖縄県を含まない。

# 1 . 少子化の実態

## 1 - 1 . 諸外国の実態

### 1 - 1 - 1 . 人口の減少

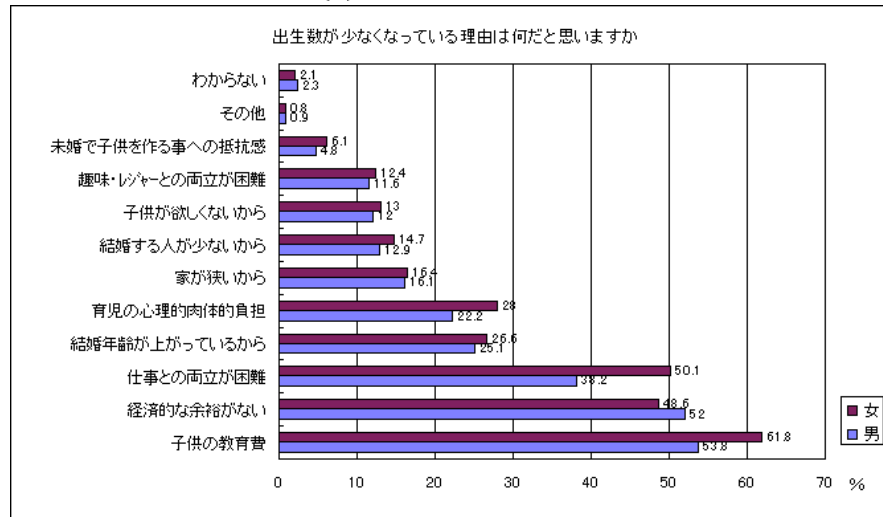
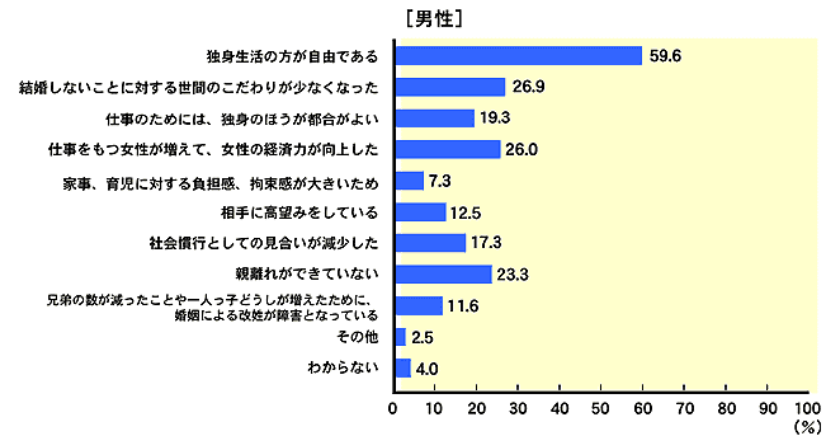
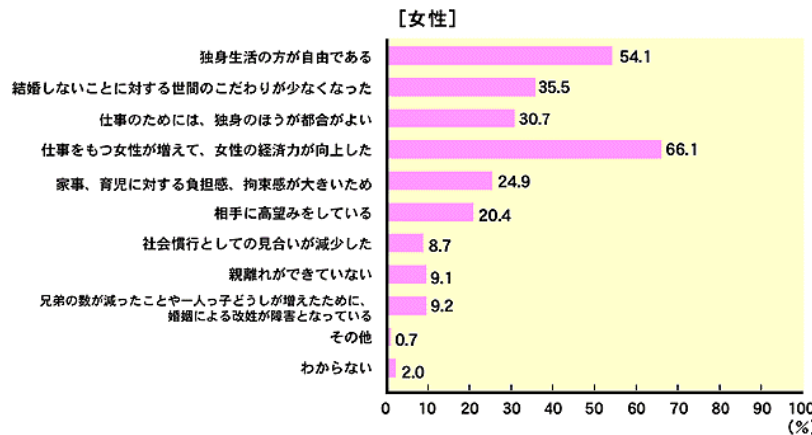
	イギリス	フランス	ドイツ	スウェーデン	イタリア	アメリカ	日本
1950年	2.19	2.92	2.05 (51年)	2.32	2.52	3.02	3.65
1980年	1.89	1.99	1.46	1.68	1.61	1.84	1.75
現在	1.63 (2001年)	1.90 (2001年)	1.29 (2001年)	1.57 (2001年)	1.24 (2001年)	2.13 (2000年)	1.32 (2002年)
1950年以降 最低の合計 特殊出生率	1.68 (99年)	1.65 (93,4年)	1.24 (94年)	1.50 (98,9年)	1.15 (98年)	1.77 (76年)	1.32 (2002年)

- 先進諸国を中心に少子化が進んでいる  
現時点で2.08を超えている国は、先進国では2000年のアメリカだけ
- 地球の人口  
一方で地球の人口は増えつづけている  
後進国、発展途上国の人口が増えているからだろうか？  
それはなぜ増えるのだろうか？  
生きていくため？  
そこに日本、先進国の少子化問題解決のヒントがあるのかもしれない

# 2 . 少子化の要因

## 2 - 1 . 結婚等に対する価値の変化

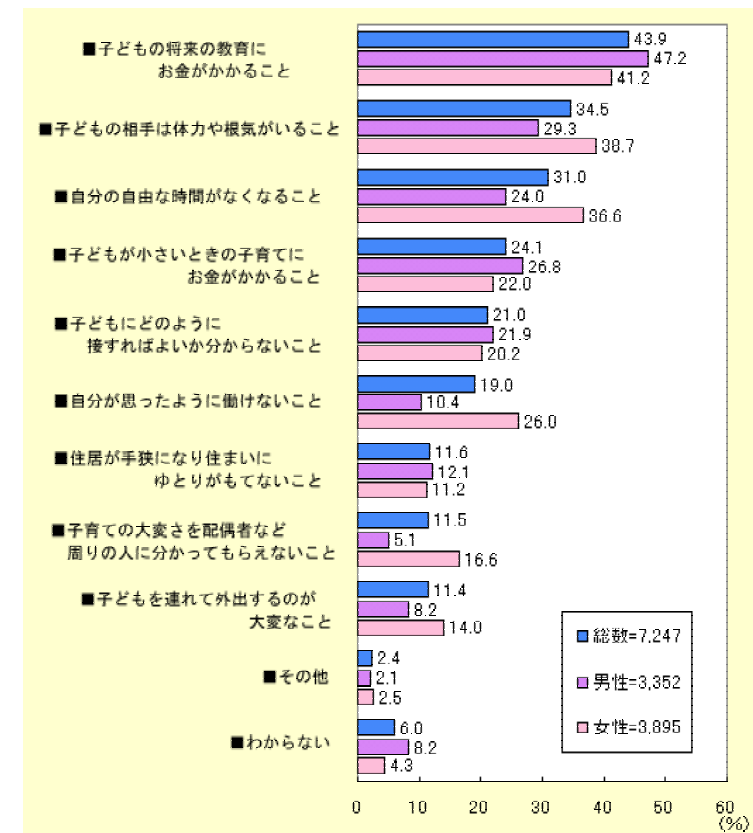
- 晩婚化の理由  
「独身生活の方が自由」という理由が上位にきている
- 出生数が少なくなっている理由  
「仕事との両立が困難」、「経済的余裕がない」、「子供の教育費」が上位を占めている



## 2 . 少子化の要因

### 2 - 2 . 子育てに対する考え方の変化

- 子育てが辛いと感じる理由  
子育ては、楽しいことばかりでなく、辛いこともあるという理由には同意できる  
辛い事の理由第1位の金銭的な問題は、現在のデフレ下の日本では切実な問題だろう  
少子化と社会システム崩壊のスパイラルダウンの構造を何とかしなければならない
- 子供より自分？  
全体では、  
「子どもの相手は体力や根気がいること」(34.5%)  
「自分の自由な時間がなくなること」(31.0%)  
などが子供を作らない理由の上位を占めている  
このような価値が存在することは致し方ないが、なんらかの啓蒙活動を進めるべきではなからうか



## 2 . 少子化の要因

---

### 2 - 2 . 子育てに対する考え方の変化

- 子供より仕事？  
女性は、
  - ・ 体力面や時間面での負担
  - ・ 仕事との両立の難しさなどに関する辛さを挙げる人が男性に比べて多い  
女性の中で、仕事のプライオリティが高くなってきている  
女性にしか子供を産めないのになぁ・・・  
子供を産んで育てることや専業主婦というのは立派な職業だと私は思うが・・・
- 子育てが辛いと感じる理由2  
「子供の相手は体力や根気がいる」「子供にどのように接すればよいかわからない」  
という理由が存在する  
幼少期の親の接し方に問題があったためにこのような価値を形成してしまったのだろうか？  
同じことを繰り返せば、その子供たちもまた同じ考えになってしまう・・・  
子育ては、「つらく大変だが、楽しく素晴らしいものである」ことを皆が認め、子供に伝えよう！

# 3 . 支援制度

## 3 - 1 . エンゼルプラン

・プランはあるらしい

[http://www1.mhlw.go.jp/topics/syousika/tp0816-3\\_18.html](http://www1.mhlw.go.jp/topics/syousika/tp0816-3_18.html)

- 1 . 保育サービス等子育て支援サービスの充実
    - (1) 低年齢児（0～2歳）の保育所受入れの拡大
    - (2) 多様な需要に応える保育サービスの推進
    - (3) 在宅児も含めた子育て支援の推進
    - (4) 放課後児童クラブの推進
  - 2 . 仕事と子育ての両立のための雇用環境の整備
    - (1) 育児休業を取りやすく、職場復帰をしやすい環境の整備
    - (2) 子育てをしながら働き続けることのできる環境の整備
    - (3) 出産・子育てのために退職した者に対する再就職の支援
  - 3 . 働き方についての固定的な性別役割分業や職場優先の企業風土の是正
    - (1) 固定的な性別役割分業の是正
    - (2) 職場優先の企業風土の是正
  - 4 . 母子保健医療体制の整備
    - ・ 国立成育医療センター（仮称）、周産期医療ネットワークの整備等
  - 5 . 地域で子どもを育てる教育環境の整備
    - (1) 体験活動等の情報提供及び機会と場の充実
    - (2) 地域における家庭教育を支援する子育て支援ネットワークの整備
    - (3) 学校において子どもが地域の人々と交流し、様々な社会環境に触れられるような機会の充実
    - (4) 幼稚園における地域の幼児教育センターとしての機能等の充実
  - 6 . 子どもたちがのびのび育つ教育環境の実現
    - (1) 学習指導要領等の改訂
    - (2) 平成14年度から完全学校週5日制を一齐に実施
    - (3) 高等学校教育の改革及び中高一貫教育の推進
    - (4) 子育ての意義や喜びを学習できる環境の整備
    - (5) 問題行動へ適切に対応するための対策の推進
  - 7 . 教育に伴う経済的負担の軽減
    - (1) 育英奨学事業の拡充
    - (2) 幼稚園就園奨励事業等の充実
  - 8 . 住まいづくりやまちづくりによる子育ての支援
    - (1) ゆとりある住生活の実現
    - (2) 仕事や社会活動をしながら子育てしやすい環境の整備
    - (3) 安全な生活環境や遊び場の確保
- ・ プランだけで終わらずぜひ実践してもらいたいものである・・・

# 3 . 支援制度

---

## 3 - 2 . 厚生労働省のページ

- 下記のような情報を公開している。  
これをみると色々やっているように見えるが・・・  
実際、私の娘も保育園に入園するのに40人待ちである  
末端まで行き届かせるのは難しいのかもしれない

- 1 . [全国少子化対策主管課長会議議事録](#)
- 2 . [少子化対策臨時特例交付金交付要綱](#)
- 3 . [少子化対策臨時特例交付金実施要綱](#)
- 4 . [少子化対策臨時特例交付金の申請状況（8月末締切分）](#)
- 5 . [少子化対策臨時特例交付金の申請状況（11月5日締切分）](#)
- 6 . [特例交付金取組事例集について](#)

[参考資料 . 平成10年度版全国子育てマップの概要](#)



## 4 . まとめ

---

### 4 - 1 . 結局のところ . . .

- 子育てのための支援の仕組みは世の中には存在する  
それら仕組みを増やすこと、よくすることは必要なことである  
しかし、支援がないと本当に何もできないのであろうか？  
支援がなくてもやっている人はいる。支援をうまく使っている人もいる  
人の何倍も考えて、努力し、苦勞もしている  
仕組みを作ることと同じくらい大事なことは、仕組みを使う側の意識もあわせて変えていくことではなかろうか

# 4 . まとめ

---

## 4 - 2 . 自己実現とは？

- 納得いくまで仕事をするこゝも、自分の好きなことをやるこゝも自己実現である  
自己実現の施策の一つに子供を持つ、そして育てるといふこゝもいれて考えるようにしよう！

## 4 . まとめ

---

### 4 - 3 . 生物の本能

- 生物には、種族を絶やさないために子孫を残すという本能があると思う  
日本も諸外国も先進国では、この本能が崩れてきているのではなかろうか？  
なぜならば、欲しいものはお金を出せば手に入るなどすべてが満たされてしまっているから？  
価値観も個を中心とした価値が形成されつつある  
「自分さえよければよい」ために、子供さえも障害となってしまうのではなかろうか？

## 4 . まとめ

---

### 4 - 4 . まとめ

現実には、保育施設などが不足していたり、経済的支援制度も完璧に整っているわけではない。しかし、仕組みを作るのには時間がかかる。時間かけていいものを作っていくためには、理解と行動力のある政治家を選出する必要がある。また、それを実行する企業・団体などにも自分のこと、他人のこと、未来のことと認識をしてがんばってもらう必要がある。

そのような状況の中、取り急ぎ我々ができることといえば・・・

昔を思い出してみよう！友人や近隣同士で助け合い、互いに子供を預けあって自分の時間を持ったり、仕事をしたりしていたのではなからうか？これも一つの解だと思う。このような助け合いを拡大していけば、あるコミュニティが形成され仕組みになったりもするし、実際にそのような行動をおこなっている知人もいる。

国でも個人でもいずれにしても子育てを支援する仕組みを増やし、より良くしていくこととあわせて、子育ての当事者である大人たち、大人予備軍の意識を変革していく必要があると私は思う。

私には、子供を持っている友人が多い。その中には、子供が3人いる友人もいる。

何人だろうと子供がいる以上、経済的にも時間的にもかなり制約されていることだろう。一方で自分の遺伝子を持った子供がこの世に存在し、その子供たちを育てていく楽しみも感じているだろう。

私にも娘が1人いるが、最低でもあと1人以上子供が欲しいと思っている。そして彼らを見習ってその楽しみ、苦しみを自ら経験し、知人に啓蒙していきたいと思っている。もちろん自分の子供にも伝えていきたい。